

大野達之助先生 御略歴

明治四三年九月一五日

東京都板橋区板橋二丁目に生る。

大正一四年三月

豊島師範学校附属小学校尋常高等科一年修了

大正一四年四月

京北中学校入学

昭和 三年三月

同校四年修了

昭和 三年四月

第一高等学校文科甲類入学

昭和 六年三月

同校卒業

昭和 六年四月

東京帝国大学文学部国史学科入学

昭和一〇年三月

同 卒業

昭和一〇年四月

東京帝国大学文学部副手

昭和一一年四月

日本古文化研究所研究員

昭和一三年九月

宮内省諸陵寮嘱託

昭和一八年三月

内務省警保局嘱託

昭和二二年四月

警察大学校教授

昭和三三年四月

駒沢大学文学部教授

昭和四四年四月

駒沢大学文学部歴史学科主任

昭和五八年四月

駒沢大学大学院人文科学第二研究科委員長

昭和五九年五月十日

没（法名、秋月院観心達道居士）

大野達之助先生 主要著書・論文目録

著書・編書

親鸞と宗教

北 隆 館

昭和二四年

日本仏教思想史

吉川弘文館

昭和三二年

日 蓮(人物叢書)

吉川弘文館

昭和三三年

史料による日本の歩み(共著)

吉川弘文館

昭和三五年

日本の仏教

至 文 堂

昭和三六年

聖徳太子の研究

吉川弘文館

昭和四五年

上代の浄土教

吉川弘文館

昭和四七年

日本仏教史辞典

東京堂出版

昭和五四年

鎌倉新仏教成立論

吉川弘文館

昭和五七年

論 文

最澄の大乗戒壇創立の意義

『日本学研究』三一九

昭和十八年

天寿国の原義について

『日本歴史』一〇一

昭和三一年

帝紀・旧辞の文体について

『日本歴史』一一四

昭和三三年

アシヨーカ王碑文の研究(一)

『駒沢史学』七

昭和三三年

- | | | |
|------------------------|---------------|-------|
| アショーカ王碑文の研究(一) | 『駒沢史学』八 | 昭和三四年 |
| アショーカ王の政治(一) | 『駒沢大学研究紀要』十八 | 昭和三五年 |
| 聖徳太子の慧思禪師後身伝説と法華経 | 『日本歴史』一四一 | 昭和三五年 |
| 奈良仏教の修多羅宗の教学系統 | 『日本歴史』一七四 | 昭和三七年 |
| 新発見のアショーカ王碑文の紹介 | 『駒沢史学』一〇 | 昭和三七年 |
| アショーカ王の政治(二) | 『駒沢大学文学部紀要』二一 | 昭和三七年 |
| 源信の天台宗疑義二十七条の抄釈 | 『日本歴史』一九〇 | 昭和三九年 |
| 天寿国考再論 | 『駒沢史学』十一・十二 | 昭和四〇年 |
| アショーカ王の政治(三) | 『駒沢大学文学部紀要』二三 | 昭和四〇年 |
| 仏教伝来説をめぐる周書異記者 | 『日本歴史』二二〇 | 昭和四一年 |
| 三経義疏の真撰論・偽撰論についての疑義(上) | 『日本歴史』二四一 | 昭和四三年 |
| 三経義疏の真撰論・偽撰論についての疑義(下) | 『日本歴史』二四二 | 昭和四三年 |
| 親鸞の思想と生活 | 『仏教経済研究』二 | 昭和四四年 |
| 最澄の大乗戒壇設立について(一) | 『駒沢史学』一八 | 昭和四六年 |
| 最澄の大乗戒壇設立について(二) | 『駒沢史学』二〇 | 昭和四八年 |
| 道元の本覚思想 | 『日本歴史』三三六 | 昭和五一年 |
| 聖徳太子の仏教 | 『歴史公論』四八 | 昭和五四年 |
| 檀生禪師考 | 『史聚』十二 | 昭和五五年 |

一遍の念仏思想

最澄の四宗相承について

研究余録・歴史手帖・隨筆

日蓮の浄土観

古事記漫筆

六国史索引の編纂

六国史索引の編纂

仏教説話とわが国の民間信仰

太子信仰の展開

在職二十五年の回想

書評・紹介

日蓮とその門弟 高木豊著

日本仏教史(古代篇) 家永三郎監修

体系日本史叢書十八 宗教史 川崎庸之編
笠原一男

聖徳太子(人物叢書) 坂本太郎著

『日本歴史』三九四

昭和五六年

坂本太郎博士
頌壽記念『日本史学論集』

昭和五九年

『日本歴史』一三〇

昭和三四年

『日本歴史』一三七

昭和三四年

『日本歴史』一九四

昭和三九年

新訂『国史大系月報』四三

昭和四一年

増補『国史大系月報』五五

昭和四一年

岩波書店『奈良六大寺大観』法隆寺四附録

昭和四六年

『史聚』十七

昭和五八年

『日本歴史』二〇八

昭和四〇年

『日本歴史』二二三〇

昭和四二年

『日本歴史』二四七

昭和四三年

『日本歴史』三八六

昭和五五年